

## 第26回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和3年12月20日（月）に、第26回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院オーデトリウムにて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内の医師、看護師、栄養士、PT、OT、心理士、MSW など、合計50名の参加がありました。

当院の松永副看護師長を司会として、以下の事例について各演者から発表があり、当院の緩和ケアセンター山縣裕史助教を司会として、シンポジウム形式で2名の先生を中心に討論を行いました。

### 事例：「長期入院が必要なAYA世代のがん患者の学習環境を整える ～同級生と卒業したい！分身ロボットを活用した治療と学業の 両立支援の実際～」

山口大学医学部附属病院 患者支援センター MSW 高砂 真明 先生  
B棟7階西病棟 看護師 伊藤 美優 先生

学業を継続したいという本人の思いに応じて、早期から多職種が介入を行い、学校関係者や行政とも連携しながら、学校生活や治療を継続できたケースで、参加者の方々からは、「本人と家族の意見を尊重して学業と治療を両立できるよう、病院も学校も素晴らしい協力体制だったと思う」「何度もカンファレンスを重ね、患者本人が望む形で治療を進められて本当に良かったと思う」「多職種が協力し、患者や家族のニーズや希望をキャッチし、同じ目標に向かっていくことで、治療のモチベーションがアップし、うまくいった症例だと思う。感動しました。」「患者のニーズに沿うことの大切さを学ぶことができました」などの意見が寄せられ、大変有意義な事例検討会となりました。

この度は、様々な職種の方々に検討会にご参加頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 《検討会風景》



